

ADMISSION

～ 国立大学アドミッションセンター 連絡会議ニュース ～

創刊号（2003年10月）

就任のご挨拶

1999年に国立大学最初のアドミッションセンターが3大学に設立されてから4年、公立・私立大学も含めてAO入試の広がりが見られ、本年度は国立大学13大学にアドミッションセンターが設けられるまでに至りました。こうした状況の中で、アドミッションセンターを有する国立大学間の相互連携を図る必要性が認識され、今年6月、国立大学アドミッションセンター連絡会議が発足の運びとなりましたことは、誠に喜ばしい限りでございます。

ご承知のように、この21世紀の最初の10年は、独立行政法人化、少子化による大学入学人口の頭打ちと全入の可能性、また新しい指導要領による教育など、国立大学を巡る環境が大きく変化しつつある時期であります。その中でも特に大学における人材育成の入り口である入学者選抜の在り方が問われている時でもあり、これに対しては、入学者選抜に関する実施や研究の専門機関であるアドミッションセンター、特に国立大学のそれらが、より良い入学者の選抜を目指して、各大学の独自色を出しつつも相互に連携を図り、わが国での先導的な立場を務めなくてはなりません。

こうした中、今回はからずも私がこの連絡会議の会長に推され、その責任の重さを痛感いたしております。今後は、加盟各大学のアドミッションセンターのご協力をいただき、さらには文部科学省や他大学とも連携を取りながら、微力ですが精一杯努力してゆく所存でございますので、どうか宜しくお願い申し上げます。

国立大学アドミッションセンター連絡会議会長

野澤 秀 樹

（九州大学アドミッションセンター長）
（九州大学副学長）

設立総会について

去る6月4日午後2時から、立川市のパレスホテル立川にて、本会議の設立総会が開催されました。設立総会には、全国13の国立大学のアドミッションセンターの代表が出席しました。

来賓として、文部科学省高等教育局大学入試室から福治友英室長補佐と小山田享史入試第二係長にご出席いただき、福治補佐よりご挨拶を頂戴しました。本会の設立趣旨に関する説明の後、会則案の審議、役員を選出を行いました。休憩の後、各アドミッションセンターから活動状況に関する説明をしていただきました。

以下は、当日の議事要録です。また、当日の審議で提起された会則案の修正意見を踏まえて、事務局で修正案を作成、それを各センターに諮ったうえで、以下のように会則を決定しました。

「国立大学アドミッションセンター連絡会議」 設立総会議事要録

日時	平成15年6月4日(水) 午後2時～午後4時
場所	パレスホテル立川 (東京都立川市)
出席者	13大学のアドミッションセンター関係者 48名
来賓	文部科学省 福治友英大学入試室室長補佐、小山田享史入試第二係長

○開会宣言 司会者（東北大学 夏目教授）

本連絡会議の趣旨、出席者数等について説明の後、来賓の紹介があった。

○文部科学省福治大学入試室長補佐ご挨拶

<議事内容>

1. 司会者から議長の選出について諮り、筑波大学白川教授を選出、同教授から自己紹介があった。
2. 北海道大学佐伯センター長から、連絡会議設立の趣旨について、配付資料の「国立大学アドミッションセンター連絡会議（仮称）」に基づき説明があった。議長から設立趣旨に関する質問については、この後の会則の検討の際にまとめて受けることについて説明、了解を得た。
3. 議長から、事前に各大学に配付し、事前検討を依頼していた会則（案）について、あらためて内容の説明があり、検討の後、了承した。

なお、議長から質疑応答については、主として東北大学から回答する旨の説明があった。

4. 議長から役員を選出（会長及び事務局長）について諮り、会長に野澤九州大学センター長、事務局長に大家東北大学センター長を選出した。

なお、運営委員の選出については各加盟機関からの代表1名を各機関で決定し、その結果を事務局に連絡することとし了解を得た。

また、幹事については、会則にしたがって、会長の委嘱とすること、各機関から選出された運営委員の中から会長委嘱の委員を選出することを説明、了解を得た。

5. 今後の活動方針の検討

6. 各アドミッションセンターの活動状況について各大学から報告

- ・鳥取大学 重政センター長
- ・旭川医科大学 坂本センター長
- ・京都工芸繊維大学 西田センター長
- ・福井大学 小平センター長
- ・広島大学 長澤教授
- ・山口大学 三浦センター長
- ・高知医科大学 八木センター長
- ・長崎大学 片峰センター長（副学長と兼任）
- ・鹿屋体育大学 倉田センター長

7. 全体の質疑応答

○閉会宣言（議長 筑波大学白川教授）

（午後4時閉会）

「国立大学アドミッションセンター連絡会議」会則

（名称）

第1条 本会は国立大学アドミッションセンター連絡会議と称する。

（目的）

第2条 本会は、高等学校・大学間の接続関係の改善及び加盟機関における入学者選抜等の業務改善に関する研究協議を行い、あわせて加盟機関相互の交流促進を図ることを目的とする。

（事業）

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

（構成員）

第4条 本会は、国立大学のアドミッションセンター、及び国立大学において高等学校・大学間の接続関係の改善に関する研究及び実践に携わる機関によって構成する。

2 本会の加盟機関は、次に掲げる機関とする。

北海道大学高等教育機能開発総合センター

旭川医科大学アドミッションセンター

- 東北大学アドミッションセンター
- 筑波大学アドミッションセンター
- 京都工芸繊維大学アドミッションセンター
- 福井大学アドミッションセンター
- 広島大学アドミッションセンター
- 鳥取大学アドミッションセンター
- 山口大学アドミッションセンター
- 高知医科大学アドミッションセンター
- 九州大学高等教育総合開発研究センター
- 長崎大学アドミッションセンター
- 鹿屋体育大学アドミッションセンター

3 新たに入会しようとする国立大学の機関は、総会の承認を得るものとする。

(役員)

第5条 本会に以下の役員を置く。

- 一 会長 1名
- 二 事務局長 1名
- 三 運営委員 各加盟機関からの代表1名
- 四 幹事 運営委員の中から会長の委嘱 4名

2 会長及び事務局長は総会において選出する。任期は2年とし、再選を妨げない。

3 役員は加盟機関の代表をもって、これにあてる。

(役員の仕事)

第6条 会長は、総会を招集し、その議長となる。

2 事務局長は、本会の運営に必要な事務全般を行う。

3 運営委員は、本会の運営に携わる。

(事務局)

第7条 本会に、本会の事務を処理するための事務局を置く。

2 事務局は、事務局長の所属する機関に置く。

(雑則)

第8条 この会則に定めるもののほか、事業の実施に関し必要な事項は本会が別に定める。

附 則

この会則は、平成15年6月4日から施行する。

役員を選出について

会則第5条の規定にしたがって、以下のように役員を選出しました。

会 長：野澤 秀樹（九州大学アドミッションセンター長）

事務局長：大家 清（東北大学アドミッションセンター長）

運営委員：下記のとおり

幹 事：下記のとおり（○印で示す）

大 学 名	氏 名	役 職 名
○ 北 海 道 大 学	山 岸 みどり	高等教育機能開発総合センター教授
旭川医科大学	坂 本 尚 志	アドミッションセンター長
○ 東 北 大 学	夏 目 達 也	アドミッションセンター教授
○ 筑 波 大 学	山 根 一 秀	アドミッションセンター長
福 井 大 学	小 平 俊 之	アドミッションセンター長
京都工芸繊維大学	大 嶋 知 之	アドミッションセンター助教授
鳥 取 大 学	中 村 肖 三	アドミッションセンター教授
広 島 大 学	長 澤 武	アドミッションセンター教授
山 口 大 学	三 浦 房 紀	アドミッションセンター長
高知医科大学	八 木 文 雄	アドミッションセンター長
○ 九 州 大 学	武 谷 峻 一	高等教育総合開発研究センター教授
長 崎 大 学	大 作 勝	アドミッションセンター教授
鹿屋体育大学	倉 田 博	アドミッションセンター長

鳥取大学アドミッションセンター

中村 肖三

(鳥取大学アドミッションセンター教授)

「設置の経緯」

鳥取大学のAO入試導入は、国立大学では鹿屋体育大学、秋田大学工学資源学部と同時に全国17番目で、2004年度実施となります。鳥取大学アドミッションセンターは、昨年4月に学内措置として生まれていました。その経緯は、道上(みちうえ)正規・現学長の強いリーダーシップによって実現したものです。副学長時代から大学改革の推進役としてFD等に深く関わった経験と、そこから生まれた危機感から「…AO入試導入は時期尚早…」の全学教授会決議を覆して導入決定したというエピソードがあります。殊に大学教育改革は全定員の四割を抱える大所帯の工学部から生まれました。大学で学ぶ目的を喪失した学生や意欲を燃やせない学生が、留年率やドロップアウト率を引き上げ始めたことがきっかけでした。そのことはFDの問題だけでは解決が出来ないという現実の悩みがあったのです。ところが目的意識の高い専願者の確保策としての推薦入試は、高等学校との信頼関係という名の下で徐々に高校側の思惑＝「値踏み」が進んでいたこともあり、狙い通りの学生の確保が難しくなっていました。つまり教育方法の改革の成果を約束するのは前提としての学ぶ意欲のある学生か、目的意識のある学生かどうかであり、入り口の問題が緊急課題と考えられたのです。時を同じくして教育学部の統合問題に先鞭をつける形で島根大学との合意がなされ、一連の大学改革への熱意が文科省に通じたのか、アドミッションセンターは省令施設として正式認可されたようです。

「これまでの活動」

着任してすぐ開始したのは高校訪問活動。4月上旬にはAO募集要項が完成し、高校の夏休みまでの3ヶ月間で訪問校数は専任教員2名で129校に達しました。エリアは地元鳥取、島根から周辺エリアの中国地方、四国は瀬戸内沿岸部、兵庫、大阪、京都、愛知そして九州は福岡まで情報産業の各社主催の説明会に前後した日程で1日5校訪問を目標として、アポイントを取らずに進学実績校を目指しました。案の定、AO入試のマーケットの評価は厳しいことを再認識することになりました。否定的な意見の理由は「合否判定基準の不明」と「不合格者へのケア」に集中。しかし、現場の高校教員と同じ目線で話すことで、AO入試の意図も次第に判って頂けた様に思います。まだ地方には国立大学のアドバンテージが残っており、こちらが熱っぽく語れば熱くなる教諭が多いことも判明。まさに、AOの真骨頂はスカウトだと実感しました。活動の成果は8月初旬に現れ、工学部のエントリー方式で募集定員の5倍(定員16名に対して81名の申し込み)のレスポンスでした。同時開催のオープンキャンパスにも、昨年比150%の約900名が猛暑の中参加しました。参加者が一万人を超える有名国立大学とは桁違いの動員ですが…地方大学のささやかな成果ではありますが、何よりもマーケットに対して「打てば響く…」ことが実感できたことは大きな励みになりました。

「これから」

9月はお願、一次選考。アドミッションズオフィス入試に相応しく、学力以外の多面的評価を学部選出のAO委員の教官と共に実施します。半年間のセンター活動の成果が問われるだけに、ここは量が質を保証する「数の論理」を証明すべく、ある一定数の競争倍率を得たいところ。10月末には二次合格発表のため、学内で共通教育を担当する「大学教育総合センター」との連携で入学前教育の実施を予定しています。来春入学までの助走期間に内定者がどれだけウォームアップ出来るかが課題です。かくして「青い鳥を求めて…」入学する第1期生31名（予定）は学内外からも大きな注目を集めることとなります。…そして、「青い鳥を見つけた…」という彼らの声を今から心待ちにしています。

この間、様々な大学のアドミッションセンター教官先輩諸氏には鄭重なるご教示をいただきました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。成果を上げることでその恩に報いたいと思います。

鹿屋体育大学のアドミッションセンター

倉田 博

（鹿屋体育大学アドミッションセンター長）

鹿屋体育大学のアドミッションセンターは、平成15年4月1日より省令施設として設置されたばかりの、生まれたてのセンターである。

鹿屋体育大学は、我が国唯一の国立の体育大学であり、その個性として、「国際競技力の向上」と「運動による健康づくり」を特色としている。

国際競技力の向上を推進するために、平成15年度推薦入学にスーパー・スチューデント（SS：高い競技能力を持つ者）の枠を取り入れた。それは平成16年度から「AO（SS）入試」を導入するための概算要求段階での予備的措置であった。

平成16年度入試から、「AO（SS）入試」を実施することになった。

本学のアドミッション・ポリシーに基づき、本学に入学する強い意欲のある、高い競技能力を持った者を、総合的に判断して選抜するものである。

募集人員は、体育学部の「体育・スポーツ課程」10名と「武道課程」5名で、計15名である。

出願資格は、過去3カ年の競技成績が、オリンピック大会出場者から、全国高等学校大会2位以上の成績を有する者、という極めて高い競技能力を持っていることを条件としているところが、その特徴である。

選抜日程・方法としては、「エントリー」、「面談」、「出願」、「第1次選考（競技歴及び意欲等審査）」までを、平成15年7月1日（火）から10月31日（金）までに平行して随時行っていくことが、極めてユニークなところである。「第2次選考（面接・健康診断）」を11月6日（木）に行い、「合格発表」は11月10日（月）となる。

現在（8月）、「エントリー」、「面談」、「出願」、「第1次選考」を行っているところであるが、全学的な広報活動の努力も幸いして順調に進められているところである。様々なスポーツ種目からの問い合わせも来ている。

国立大学アドミッションセンター連絡会議の設立集会の際に、「極めて高いところに基準が設定されているので、応募が募集人員に満たなかったらどうするのか？」ということをお心配していただいた向きもあったが、そのようなことにならないことを願っているところである。

本学のアドミッションセンターの部門及び業務としては、「AO入試検討部門」、「入試改善調査部門」、「企画広報部門」の3つがある。

「AO入試検討部門」では、1) AO入試の具体的な実施方法の検討、2) AO入試の実施に関する企画、3) その他AO入試の実施に関する事項、がその業務となっている。

「入試改善調査部門」では、1) 入学者選抜試験の成績、入学前の成績及び入学後の成績等の調査研究、2) 卒業生の追跡調査、3) その他入学者選抜の改善に係る調査研究に関する事項、の業務を行うことになっている。

「企画広報部門」では、1) 入学者選抜に係る情報の収集及び提供、2) 大学説明会、進学ガイダンス等入学者選抜に係る広報に関する事項、3) 高大連携に関する企画、4) その他入学者選抜に係る企画・広報に関する事項、がその業務となっている。

これらの業務を遂行するために、「アドミッションセンター運営委員会」を置いている。運営委員会のメンバーは、これらの各部門を担当して業務を遂行している。現在、各部門別の平成15年度実施計画を策定して、検討を進めているところである。

＜編集後記＞

来年度からの国立大学法人化に伴い、大学独自の財政基盤の確立、教育の質の向上などともに、優秀な受験生の確保・選抜がますます重要になっています。その中で各大学ともアドミッションセンターに対する期待とともに、その役割と責任は大きくなっていることとと思われます。それだけに、各センターが相互に連絡を取り合い、共通の課題に取り組むことが必要であり、本ニュースもその一助としてご活用いただければ幸いです。

本ニュースでは、各大学のアドミッションセンターの紹介コーナーを設けています。第1回は、設立間もない鳥取大学と鹿屋体育大学に原稿をお寄せいただきました。執筆いただいた中村、倉田両先生に感謝申し上げますとともに、今後皆様方のご協力をお願いします。(N)

国立大学アドミッションセンター連絡会議ニュース 創刊号

発行：国立大学アドミッションセンター連絡会議

編集：東北大学アドミッションセンター

〒950-8577 仙台市青葉区片平2-1-1

TEL：022-217-5416 FAX：022-217-4863